日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-0082
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成10年1月1日
第17号

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

リレー提言⑦

有為の人材養成こそ急務

日蓮本宗宗務総長
田中良英

高祖のみこころを生かして

「末法」の世相を一掃すべき「時刻」の到来

新しい歳平成十年を迎えて、まず高祖日蓮大聖人のご宝前に新年の賀を言上し、併せて門下各ご寺院のご隆昌と各聖ご法躰のご健全を祈念申し上げます。

近年地球環境は破壊と汚染の一途をたどり、生息する動植物に多大の悪影響をもたらしております。われわれ人類とて例外ではありません。昨年十二月一日から十日まで京都市において、世界百六十七ヵ国・一地域＝EUから政府代表約千五百人、非政府組織（NGO）などのオブザーバー約三千五百人、報道関係者約三千五百人の総計八千五百人が参加し「地球温暖化防止京都会議（気候変動枠組み条約第三回締約国会議）」が開催されました。連日真剣に白熱した討議が交わされ、これらの模様については、新聞・ラジオ・テレビなどのマスメディアが一斉に報道しましたので、各聖もよくご承知のことと存じます。

非政府組織（NGO）などのオブザーバーに宗教者の姿もみられ、七日には「宗教者平和の祈りと地球温暖化防止の行進」があり、本宗でもこれに協賛して、本山要法寺の梵鐘を午後四時から十分間つかせていただきました。

思い返しますと平成九年は国の内外を問わず「末法」の世相が、ますます強まる様相を呈してまいりました。わが国の政界は混沌として、行財政改革も当初の計画よりすると、『竜頭蛇尾』の観があります。経済界は大混乱を来し、金融界は『百鬼夜行』の状態であります。社会情勢は悪化して人心は「疑心暗鬼」の傾向が強まり、凶悪な犯罪が後を断ちません。それに乗じて宗教に名を借りた「醜狂」が横行し、正に「白法隠没」時代の現象そのものであります。

建長五年（一三五三）四月二十八日、高祖日蓮大聖人が旭ヶ森にお立ちになり、洋上はるかに昇りくる大日輪に向かい「南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経」と声高らかに立教開宗の第一声を挙げられました。それより七百四十六星霜、平成十四年には七百五十年の記念すべき年を迎えます。

鎌倉時代の世相を高祖日蓮大聖人がご覧になって「末法」時代を痛感され、立正安国論を時の幕府に献じて諫暁されたのでありますが、時代が移った今日はなお一段と世相は悪化し「末法」時代の邪悪が横行しております。

今こそ日蓮大聖人門下の僧俗「異躰同心」一丸となり、身を持って法華経の精神を根底にお題目修業をより強力に進めなければならない「時刻」が到来していると存じます。

日蓮大聖人は「時刻」を重要視され、御妙判の随所にこのことをおのべになっていらっしゃいます。

不自惜身命で自行化他に励む宗門人の育成を

私どもの『日蓮本宗』は、興門流尊門派で高祖日蓮大聖人の法孫（日興上人の付弟）二位法印日尊上人を開山とする本山要法寺とその末寺とを包括する宗門であり「法儀清純・師厳道尊・給仕第一」の理念をかかげ、一天四海皆帰妙法、広宣流布を目指して精進いたしております。

寛永五年（一七〇八）に発生した京都大火によって、寺町二条の地に偉容を誇っていた本山要法寺の諸堂伽藍、山内の各坊もことごとく消失したため、現在地に移転しました。その後、嗣法歴代々の先上師や先師のなみなみならない尽力によって、相次いで本堂・開山堂を始め諸堂伽藍が建立されたのです。以来三百年近くを数え、大修復の要が生じ、宗門の僧俗の力を結集して、ついに昭和六十一年（一九八一）現董嗣法第五十一祖日有上人の代に本堂・開山堂大屋根修復工事がなり、続いて老朽していた客殿・大書院・庫裏などの全面改築に取り掛かって、平成八年（一九九六）にいたり完工をみました。これらの大事業は開山日尊上人の第百五十遠忌（御正当平成六年（一九九四）五月八日）の記念行事として行なわれたものです。

管長・本山現董日有上人は「堂塔伽藍がいくら立派になっても、法華弘通の念に燃え、お題目修業を身を以て行じ、不自惜身命で自行化他に励む宗門人を一人でも多く育成しなくてはならない。それが目下の焦眉の急務であり、高祖日蓮大聖人を始め御開山日尊上人のご鴻恩にお報いする一端である」と常々仰せられております。

当宗では宗務院教学部が主体となり、夏期には未教師を対象の研修会を、冬期には教師を対象とした研修会を開催しており、各教区でも独自に教師対象の研修会を開催して資質向上に努めておりますが、なかなか管長・本山現董日有人のご方針・ご指示のように進まず「日暮れて道なお遠し」の観があり、心痛いたしております。

本年七月三十一日に「客殿・大書院・庫裏などの全面改築大事業を成満したので」と、任期を残して退任した佐藤智明宗務総長・本山執事長の後を受けて、八月一日より宗務総長・本山執事長に就任させていただきました。

平成十四年に迎える立教開宗の記念すべき年に向かって、有為の宗門人材の育成を始め記念の諸事業の計画を練っているところであります。

門下各ご寺院・各聖「異躰同心」で法華弘通とお題目修業を不自惜身命で行じ、自行化他に努め高祖日蓮大聖人ご鴻恩の万分の一にでもお報いいたしましょう。正に「時刻」は今なのです。

本山要法寺正門
（伝伏見桃山城より移築）

田中良英宗務総長

全面改築新装になった大玄関

木の香もにおう新客殿

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

従地涌出

◆創刊以来、十年以上たった現在でも、「門連だより」は続いている。川の水は止まる事なく流れている。物事は続けていく事に意義があるのでは、信心も又同じ事ではないのだろうか。（或は火のごとく信ずる人もあり、或は水の如く信ずる人もあり、……水のごとくと申すはいつも退せず信ずるなり）蹲鴟御書（上野殿御返事）

◆編集委員の方々の、たえまざる努力により、今まで続いてきたのではないのでしょうか。

◆開宗七百五十年に向かって、我々、日蓮聖人の弟子として何が出来るのであろう。また何をしなければいけないのか。

◆（異躰同心なれば万事を成じ、同躰異心なれば諸事叶うことなし）異躰同心事　各宗派一丸となり「一天四海皆帰妙法」となる様に、日蓮聖人が初めて、御題目を口唱され我々凡夫に授けて下さった様に、我々も努力していかなくてはならないのでは。日蓮聖人が唱えられた御題目をそのまま信じて、そのままに他の人を教化しなくては、開宗七百五十年は何時までも来ないのではないでしょうか。

◆末法は、摂受の修行ではなく折伏の修行の時代だと言う事は私が言うよりも、皆様方の方が御存知の事であろうと思います。

◆（万民一同に南無妙法蓮華経と唱えたてまつらば吹くかぜ枝をならさず、あめつちくれを砕かず代は……）如説修行抄　この様な時代になすべく、私は精進いたしたく思っております。

◆開宗七百五十年に向かっての、私の思いです。（秀慈）

法華信仰者の芸術文化展について

日蓮聖人門下連合会が日蓮聖人第七百遠忌報恩、共同事業として、

1。日蓮聖人劇の合同公演
2。日蓮聖人展の開催
3。オラトリオ日蓮聖人の創作
4。門下青年の船

の四大事業を企画実行したことは記憶に新しい。その詳細は「結成30周年記念日蓮聖人門下連合会30年の歩み」を参照いただきたいが、それぞれに大きな企画であり、実行にあたっては様々な困難があったが、異体同心、所期を達成した。

聖人劇は前進座による全国公演が昭和五十四年度、五十六年度二カ年に亙って行われ、のべ二三五ステージを数える成果をおさめた。

聖人展は昭和五十六年、大阪・東京・小倉の三大都市に於て日蓮聖人の「教えと心」をテーマに十万名の観客を集めた。

「オラトリオ日蓮聖人」は西川満作詩、黛敏郎作曲に依り、大聖人の御一代に法華経をおりなした雄大な作品となり、東京新宿で発表会、当日の録音はレコードとなり、広く頒布された。

青年の船は、昭和五十七年三月二十六日より十一日間の行程で門下青年五〇〇名をのせたコーラルプリンセス号がサイパン・グァムに出航した。「七〇一年の旅立ち」「めざせ立正安国」をテーマに法華経、日蓮聖人の教えを学び、また戦跡慰霊、相互研修などを通じ、友情の絆をたしかめあった。

これらの事業の推進は、常時渉にあたった門連理事、常任理事各位の熱き為法の志、所属各宗派、教団の協力体制があってなしとげられたものであり、一宗派の事業でなく、門下連合会の共同事業として行われたことに大きな意義があった。

さて立教開宗七百五十年（平成十四年）に向け、門連加盟各宗派（教団）にあっては色々と慶讃事業に取り組み、勧募等既に始動し、事業を推進しつつある現状であるが、門下連合会の共同事業としては、「法華信仰者の芸術文化展」が、現在検討されている唯一の企画だ。

この企画は過去三年間にわたり常任理事会、理事会で慎重審議が繰り返されて今日に至ったが、その企画内容の概要は左の通りである。

開催　平成十四年（二〇〇二年）
会場　1。東京国立博物館
　　2。京都国立博物館
主催　東京国立博物館
　　京都国立博物館
　　（各会場二週間～三週間）
後援（協力）
　　日蓮聖人門下連合会
　　新聞社
予算・費用　全て主催者負担
　　（展示物の蒐集、展示、返却、保険など）
展示
1。室町期より江戸期に至る日蓮聖人門下僧侶、信者で著名な芸術、美術に秀でた人々の作品（絵画・彫刻・工芸・墨跡など）を展示。日蓮聖人門下の文化、芸術活動の流れにスポットをあてる。（例　狩野永徳・尾形光琳・俵屋宗達・狩野探幽・歌川国芳・本阿弥光悦・長谷川等伯・北斎・蜀山人・十返舎一九など）
2。展示総数
およそ百五十点。内約五十点を門下各派より出展、あとは博物館サイドで蒐集にあたるとの博物館側の意向である。

右は門下連合会と東京国立博物館側との交渉の結果だが、本企画に博物館側も大変積極的な意向を示しているという。

予算費用を博物館側が全て負担するということは企画推進の上で大きな魅力であるが、問題は博物館側から要請されている「五十点」の出展が可能であるかどうかである。

十二月一日の京都理事会に先立ち日蓮宗宗務院で開催された門連常任理事会では企画検討の上で、門連加盟各派（教団）並びに傘下寺院（支部局）、檀信徒（会員）が所蔵する現況について調査を行う事を決定し、調査依頼文書及び調査票を各派に送達した。

その結果は十二月一日、京都理事会開催の段階では回答一宗派のみで未だ回収されていない状況だ。

十二月一日、京都頂妙寺で開催された門下連合会理事会・京都門連との懇談会では本案件が主要議題となり、熱心な論議が交わされた。

一日の理事会に先立ち、京都門連でもこの件につき意見を交換し、各宗派、本山より資料を提供するよりも、東京国立博物館に全ての資料がある筈であり、博物館側より資料提示があってしかるべきだ、との議論がなされたと聞く。

頂妙寺でもこの点をめぐって担当大橋常任理事、飯田京都門連副理事長、金山京都門連会長などが意見を述べあった。いずれにしても今回門連で行った調査依頼は、本展実行に関する基礎資料であり、企画の主体はあくまで門下連合会にあり、また各宗派本山の自主的な調査資料には、日蓮聖人門下の隠れた芸術作品が現存する可能性も秘めている。

理事会の結論として今回調査の推進を確認したが、権威ある国立博物館を会場とする本展企画が実現すれば、対外的アピールはもとより、日蓮聖人門下活動の歴史に新たな一頁を加えるものとなろう。

文化展について活発な論議がなされた
門下連合会理事会・京都門連との懇談会

▼人事（日付は事務局への連絡日）

年月日	氏名	宗派（役職）	門連役職	就任	退任
九・六・二六	吉村日義師	本門法華宗管長	顧問		退任
	松本日望師	本門法華宗管長	顧問	就任	退任
九・一	中村通義師	顕本法華宗	理事		退任
	大川定信師	日蓮本法華宗	常任理事	就任	退任
	佐藤智明師	日蓮本宗宗務総長	常任理事		退任
	田中良英師	日蓮本宗宗務総長	常任理事	就任	退任
	原　真昭師	日蓮本宗	理事		退任
二・一三	今村要道師	日蓮本宗	理事	就任	退任
	和田日攝師	法華宗本門流管長	顧問		退任
	鈴木日有師	法華宗本門流管長	顧問	就任	退任
三・一〇	原井慈鳳師	法華宗本門流宗務総長	常任理事		退任
	川口日唱師	法華宗本門流宗務総長	常任理事	就任	退任
	三浦成雄師	法華宗本門流	理事		退任
	桃井晋城師	法華宗本門流	理事	就任	退任

日蓮聖人門下連合会

●目　的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

「立教開宗750年」
旅、こころ
パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、
旅のことならなんでもそろっています。
私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。
旅する人の気持ちで……JTB
JTB
For Your TraveLife
素敵な「旅」をご提案します。
日本交通公社
運輸大臣登録一般旅行業第64号

恭賀新春

平成十年戊寅

日蓮聖人門下連合会

日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 田中日淳
宗務総長 永井祥文
宗務副総長 岩間湛正
綜合企画部長 渡辺清明
庶務部長 栗原正震
財務部長 星光喩
教務部長 齋藤邦昭
護法伝道部長 小倉光雄
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 新井貫厚
現代宗教研究所長 石川浩徳
国際開教室長 上田尚正
人権対策室長 大乗文延
参与 堀江宏正
参与 浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長 三坂恵人

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 鈴木日有
宗務総長 原井慈鳳
教化部長 圓成淳龍
教学部長 桃井晋城
財務部長 坂巻顕導
庶務部長 矢吹慈英

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

管長 吉永日晴
宗務総長 中山昭夫
宗務次長 山本学人
財務部長 白井謙光
布教部長 大川定信
教務部長 奥村智学
社会部長 鈴木無着
庶務部長 三坂岳応
主事 山本晃道
多門顕正
津村乗信
小松正学

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長 竹嶋日香
宗務総長 土屋善敬
総務部長 都築哲信
教学部長 佐古弘文
教化部長 門谷東生
財務部長 八木恵岳

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 井上日慶
講尊 梶本日裔
宗務総長 小山日誠
宗務副総長 笹田日昌
宗務副総長 佐藤政司
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀日有
宗務総長 田中良英
総務部長 教学部長 今村要道
財務部長 岩崎隆義
法務部長 佐藤哲夫

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

管長 真枝日世
宗務総長 吉田研宏
総務部長 上田浩岳
教学部長 辻本寛孝
教化部長 寺田完英
社会部長 中西順英
財務部長 水野智啓

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 松本日望
宗務総長 高邊信幸
宗務部長 信隆允忠
財務部長 増田隆雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 土畑信教
教務部長 音羽隆全
門連常任理事 持地光学

宗教法人

国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中暉丘
理事長 三田道弘
副理事長 入江克郎
門連常任理事 大橋邦正
門連理事 淀野寿夫
本部事務局長 石見良教

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606 京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

会長 金山日龍
副会長 松本日望
理事長 杉若恵隆
副理事長 飯田信栄

日本山妙法寺

〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六

首座 上野行量
長老 塙行幸
長老 石山善邦

日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人 今井行順
東京都千代田区九段北三―二―二三

天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局 松谷被鎧
〒150 東京都渋谷区神泉八―七

共通の課題を探る

門下連合とは何か

H　（承前）具体的なことは何も考えつきませんけれども、そういうのができたらいいなという思いはあります。

何年後かに国会も動かして、「みどりの日」の「昭和の日」への改名が達成されることを目指しているんですけれども、そういうような、何か門連の青年の力を結集してできるものがあればいいなと思います。

A　青年会をつくったとしても、共通の理念のもとに、そういった社会的な運動に結びつくには、なかなかいかないですね。

H　難しいでしょうね。しかし、力を結集できる、前向きに取り組むものが欲しいですね。

I　今もおっしゃったんですけれども、最初、趣味的な交流というか、あるいはさっきも言われた青年の船の流れの組織というものも多少なりとも残って、それなりにそういうこともでき得るんじゃないかとは思ったんですけれども、それよりもまず、こう言うと怒られるかもしれませんけれども、門下連合って何かということが、まず主体だと思うんです。

全く知らない人ですと、極端な話、各宗の幹部連中のお茶飲み会でしょうというような感覚があるわけですね。まず門下連合というものはこういう組織なんですよというものを、末端教師まで理解してもらえるようなことをまずひとつテーマとして取り組んでいかなければならないんじゃないかなという気がするんです。

上の人だけが動いても、下が動かなければ、本当に大きな波というものは立ちませんから、やはり一番下まで本当に門下連合の必要性、大事さというか、そういうことをわかり得るような活動というものを、七五〇に向かって企画していくべきではなかろうかという気はするんですけどね。

現状で門下連合そのものを理解されている教師の方々というのは、そう多くないと思うんです。そこら辺をやっぱり上まで上げていただければなと思うんですけれども。

A　今のご発言に付言して申しますと、門下連合会とは一体何なんだと。これについては理解が徹底してないじゃないかということで、『門連だより』には門下連合会の目的とか事業とか、そういうものは、一応、毎号載っているわけなんです。

「本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。」というふうに目的が掲げられていまして、

「前条の目的を達成するため左の事業を行う。」として、

一、祖廟護持の組織強化
二、教育事業の提携
三、布教の連合強化
四、懇談会、研究会、講演会等の開催
五、各種出版物の刊行
六、海外布教の提携及び交流
七、対外的な各種の運動
八、その他

というわけです。

これに沿って、門下連合が今どういうことをやっているかといいますと、第一に年一回の祖廟参詣、それから門連代表として国柱会による祖廟輪番奉仕、『門連だより』の刊行などが門下連合会のともしびを保っていると言ってもいいんじゃないかと思うわけです。

本音をぶつけ合う

J　今までの皆さんのご意見をお聞きしていて、青年僧なんかが会合できる場をそれぞれの歴史と教義とを尊重しつつやっていく。建前はそうなっているんですけれども、なかなか本音のおつき合いになると、何ができるかわからないですけれども、具体的には七つ、八つの事業が挙がっているんですけれども、これが何ができるかということで、この一つでも達成できるようならば……いいと思うのですが。特に青年の船に乗せていただいたんですけれども、自分の宗派、自分のお寺だけを思っている場合があって、なかなか他まで手がいかないというところがあります。青年僧が勉強する場を設けて、その中で講習会なり勉強会、それぞれ教義等は違うんですけれども、お題目を唱え弘めるということに関しては、皆、共通なわけです。その中に何か出てくるんじゃないか。漠然としているんですけれども、青年僧として布教の最前線に立つ者としての宗派を超えてのいろいろ会合し協議等ができる場をつくっていく。それだけでもできれば良いと思います。

七五〇に何かやるとか、花火を打ち上げるというような一過性のイベントよりも、長く続いていく何か、まだ具体的なことはわかりませんが、そういうふうに考えていったほうがいいのではないか。法の華とか、いろいろ新々宗教みたいなのが出てきて、問題が出てきているんですけれども、時代がどんどん動いているのに、それに対応できていない、既成仏教化しているという指弾はよく受けるんですけれども、指弾を受けるだけでなく、その中で答えを出していくために協議の場を設けていただければ結構だと思います。

どういう形でできるかわからないですけれども、ともかく個人個人の本音で結ばれ合う場を設ける。皆さんのお立場をよく考えて、門下青年連合会を設けるかどうかわかりませんが、そういうものを設けまして、具体的にはっきり目標を持って、進んでいく事が大事じゃないかと思います。

K　私がこの門連会議に出席させていただいてから、足かけ四年ぐらいになるんですけれども、うちの兄が本山の役目を仰せつかった時点で、私に任せるということになったんです。

当座は門連のおつき合いは可もなく不可もなく、さしさわりのないところでおつき合いをしておれと言われたんです。ですから、要するに本音と建前というのを使い分けて、皆さん宗派を背負って来ているわけですから、建前でおつき合いすればいいかなという観念でやってきたわけです。

ところが、今、一般社会では、本音と建前というルールが崩れかけているんですね。もともと、宗教界というのは、本音と建前がない世界だと思ったんですけれども、これほど縦社会がはっきりしている世界はないんですね。一日違いの修行で全然違いますから。

本音を闘わせればいいんでしょうけれども、宗派の肩書きを背負ってきているわけですから、なかなか本音の部分は出てこないんですね。ですから、我々個人個人が宗派を超えて、趣味などでおつき合いをしながら、下からの改革といいますか、声を上に持っていったら、少しは変わるかと思うんです。

具体的な活動というのは、これから着手するんですけれども、我々門連の編集委員が、お互い本音をぶつけ合って、少しでも改革できるような形をとっていったらいいんではないかと思います。

規約改正・青年会・地方門連

I　最後になりましたが、私も一言発言させていただきます。

今、本音と建前というご意見がありましたが、これは私ども宗教者ばかりでなく、あらゆる組織に所属する者にとって永遠の大きな課題といえましょう。私自身、宗命により今席に派遣されているわけですから、個人としての発言はOKですが、これが宗門の意見だというとそれは違います。ただ、「いま平成の大聖人さまがおわしましたならば」ということを常に念頭において行動と発言をしたならば、おのずと答えは一つですし、宗派門流を超えた光明が見えて来るのではないでしょうか。そしてそれが、開宗七五〇年の奉讃事業へと繋がっていくものだと思います。

私どもの宗団は七〇〇遠忌のとき、積極的な協力ではなかったために、宗門人の門下連合会の事業参加は勿論のこと、個人的には私も船に乗り損ないましたことが残念でなりません。私自身、我が門流の教義と宗旨には自信と誇りを持っていますから、団結とかいう言葉は決して好みません。しかしここは教義云々はさておき、開宗七五〇年には大聖人の意を体して、一宗一派では円成できない門下挙げての是非大きな事業を企画していただきたいです。

それからもう一つ、いつの時期に制定されたか存じあげませんが、先程の門下連合会の規約についても、改正の時機が来ているような気がします。もっと現実に見合った、それこそ建前ではなく本音の内容に改めるべきではないでしょうか。差し障りのないおつき合いや、個人の交流だけなら解散してもよろしいでしょう。門下連合会のお偉い先生方はお考えいただきたいものですね。

若輩ながら勝手なことを申しあげ失礼しました。

A　一応、皆さんが言われたんですが、皆様のご発言の中で共通する部分は、本当に我々が上からどうこうと言われて動くんじゃなくて、初めにご発言もあった個人個人の結びつきというか、そういうものを深める中で本音で語り合えるそういう関係をつくった上で、一歩一歩そこから着手する。具体的にこういうことをやろうというご提案はないんですけれども、その辺を基本に置いて、これから進んでいったらどうかということは、大体、共通したご意見としてあるだろうと思います。

さらに、門下連合会という組織に即して言うならば、かつて青年の船というものもあったわけなんで、こうした一つのことを想起し、門下連合会の中に青年会的なものが組織できれば、そういうことも将来に対してもいろんな面で意味がある。

それからまた、門下連合会の事業の中に地方門連の結成ということもうたわれておりますけれども、現実には京都、北海道、大阪ということで、もちろん京都門連については本家連合会と一緒になって、それなりに充実した運動等を行われておりますが、北海道門連、大阪門下懇話会、さらに地方にもできるんではないかというご提案もあったわけでございます。

また、我々、門下連合の教師として、大聖人の布教伝道、教化を忘れてはならないというご意見等がございました。

また、個人の交流という範囲をもっとふかめて、いろんな研修会といったものを通じて、交わりを深め共感するということも言われました。

さらにはまた、具体的な活動として小湊から清澄への唱題行脚を門下として共に太鼓をたたいてお題目を唱えるという実践のご活動も挙げられました。

きょうは大変唐突の中で、皆さん日ごろ思っていらっしゃることをお述べいただき、幾つか将来に向けての示唆もいただきました。

そろそろ五十分になろうとしておりますが、この機会にもう一言ぜひ言いたいということがありましたら、あと十分ご発言をいただきたいと思います。

世襲制の限界と後継者問題

E　今、叡山でも一般公募とかということで、それぞれ人材育成をしていますけれども、門下連合ばかりでなくて、各末寺にすれば後継者が非常に不安定だということが共通の問題で、また無住のお寺があ

日蓮門下

編集委員座談会（下）

るとか、そういったことで、個人交流から人材の交流にまで発展していけば、本当に門下連合として活動せざるを得ないわけですね。実際にそういう人事の上で交流ができるようになるためには、個人交流がベースとなって……。

明治以降、世襲制を国法が認めて、みんな世襲制できて、ここ五十年で世襲制の限界は、みんながわかると思うんですね。息子が後を継いでくれん。だから、こういう長年ずっと辞令一本で末寺に飛ばされたりしている今の役人みたいな感じで僧侶は末寺を守ってきたわけですけれども、そういう土着して、定着して世襲制の中でやって、たまたま後継ぎがいないと、奥さんが出家して、息子が、孫が一人前になるまでつなぐとか、変則的な形で末寺を守っている。

でも、最悪の場合、一族の中から住職になってくれなければ、やはり昔と同じように、寺族が寺を出なくちゃいけないわけです。檀家は何か寺は住職のものみたいな意識を持っていたとしても、現実が厳しくなれば、結果的に自分が何十年育ててきた、管理してきた寺でも、後継者がいなければ出なくちゃいけないわけです。そういうのはこれからもますます盛んになるというか、自分の個々の問題として持ち上がってくると思いますから、やはり個人交流をベースにして、人材交流にまでいくためにも、お互いを知らないと人材交流なんかできないですからね。

そういう方向に門連の活動がいけば、門連が本当に必要なんです、お互いにね。自分らの宗門の中だけでは、もう採算とれないというか、立ちいかなくなってくるから、当然ほかの人たちに助けてもらって、立ちいくように考えていかなくちゃいけない。世襲制は歴史の中で五十年ぐらいは、何とかやってきたけれども、これから二代、三代、百年は続かなかったなということになると思うんです。

その辺の視点から門連の必要性を訴えていくのも一つの方向と思います。

一つの宗派を目指す

B　基本的には各自の自覚だと思うんですけれども、今おっしゃった問題は、昔から育った世界がやっぱり強いものですから、行、学が違うとむつかしい。

しかし例えば声明の講師に日蓮宗のH師を御招きすれば来ていただけるのかどうか。

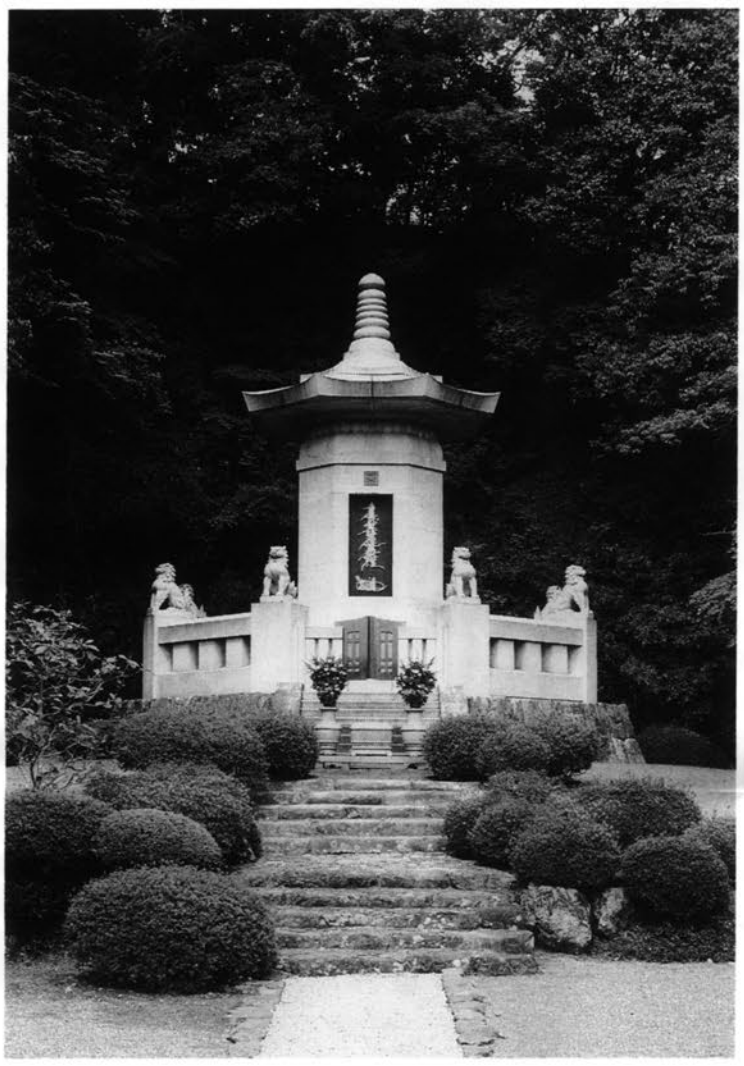
その辺が門下という形で、これができたら実はありがたいなと思うんです。将来に向かって、そうしていけば、必然的に所作とか声明なども、どこへ行っても使えるような形になってくると思います。

D　実際、我々がこうやってふだん接しているとき、各派の教学的な議論というのは全く出ないですね。

やっぱり一宗としてあるためにも、宗旨が一番大事なものだと思うんです。過去の歴史を見ますと、手前味噌で申しわけないんですけれども、本宗の開祖は、当時の日蓮門下が権力争いでバラバラになった。そうでなくて、日蓮聖人に返るべきだと主張なされた。別に開祖は、独立した宗派をつくったわけじゃないんですね。これは過去の歴史の中で申せば、日蓮法華があまりにも強大になって、権力のほうでちょっとヤバイぞということで、それでこういうふうに分派化されていったということを思えば、やっぱり日蓮聖人に帰るべきだということで、先ほどどなたかのお話のように、たとえば日蓮聖人の御遺文を平易に現代語に訳して、お互いに勉強していくとか、そういうことも必要でしょうし、また、行法についても、どうしてそんなにいろんな行法ができてきたのかとか、そういうところから始めて、もちろん各派の教義・伝統というものは尊重すべきものですが、自分のところの教義が一番いいという気持ちはどなたもお持ちでしょうが、じゃ、どうしてそういうふうに教義の違いができてしまったのかなということも、皆さんで、こういう場で話していくうちに自然と理解されていく部分はあると思うんです。

そういうことで、「連絡、協力、団結」と規約にありますように、私は理想で言うと、先ほどHさんがおっしゃったように、最終的には一つの宗派になれれば一番いいことじゃないかと思うんです。

A　今日のところは、この辺で座談会は終了したいと思います。



門連の精神支柱、祖廟

座談会を終えて

編集長　富川　孝恭

今回の座談会は、予定されていなかった突発的企てにもかかわらず、いろいろな問題点が出た。

それだけ、門下連合会に向ける目が、各自平生からその目的が絞られている証左である。

そもそも今回の企画は、日蓮聖人開宗七百五十年をお迎えするにあたり、本紙上にて編集委員という立場から、一人ひとり何が出来、何が出来ないのかを、自由に述べ合う機会とすることにあった。

しかし、七百五十年の好機に向け、具体的な活動の共通テーマを探り当てることは出来なかった。すなわち、この点では、この編集会議の性格上、具体的活動方針の策定は無理であることが理解出来た。

具体的なテーマを探り当てるのが無理なことは、実は我々編集委員会の委員にはある程度わかっていたことではある。それ故に、話し合いのテーマが当初は門下連合の精神的在り方に集中した。

京都方式と呼ばれてもよい京門連の活動に目が行ったのも、こうした面で妥当性があった。

京門連の歴史が、単に過去の出来ごとを誇示するのではなく、現在も依然として継続されていることに、連合会のひとつの在り方が示されている。これには誰も異存は無かった。

実り多かった座談会

では、この京都方式を全門連としてなぜ踏襲出来ないのか、そこに一部の委員から述べられた、組織再点検論も説得力を持つ結果になった。

この説得は、発言者本人が現実の行動として門連再点検、イコール解体論を主張しているのでは決してない。否、むしろ逆説的に解体を目指すぐらいの決意での再構築を叫んでいることは、出席者のすべてが理解しているところである。

要は、門連の全組織を挙げて取り組む企画が実現すれば、その実現の達成に向け、門連解体尚辞さずという覚悟でぶつかるべき、という意見の表明である。

それにしてもである。かつて取り組んだ、〈日蓮聖人七百遠忌青年の船〉は、今もそのインパクトを持ち続けている。

編集委員のメンバーの中でも〈青年の船〉の企画に取り組み、乗船した委員が残っている。十六年前の行事が、未だ過去に流れ去っていないことに一驚する。

何故こうなるのか。

原因はいろいろあろうかと思うが、そのひとつに船という環境がある。

船の持つ環境は、まさしく運命共同体である。船が沈没すれば、一瞬にして乗り組む人間のいとなみもすべて没し去る。

そこに、死なば諸共という諦観が生まれ、共同体に生きる一員としての意志統一が可能になる。

たとえば、一人ひとりが勝手気ままな行動をとっていれば、共同体に参加出来なくなる、参加出来なくなれば人間存在が無になる、こうして統一された行動が可能になるのである。

お題目を唱え、ご遺文を拝しても、各宗派の独自性は二の次で、まずは一致した行動理念の確立が要求される。観念論ではいけないのである。

今、門下連合会に必要とされるのは、こうした環境が、依然として観念的な、すなわち肉感としての連合が摑めないために、入り口論で行きつ戻りつしていることへの反省である。

このジレンマを解消するために、〈青年の船〉効果を感得している委員から、あらためて指摘されたのではあるまいか。

開宗七百五十年を迎えるにあたり、今回の企てで明らかにされた諸点を、門下連合会の上層部は他人事として済ませてはならないと思う。

門連が、加盟各派教団の役員のサロンと化している、この指摘に対しては、別に不名誉なことと思う必要は認められない。むしろ、これを積極的に活用し、サロンから実物を生めば、サロンもまた無くてはならない必要な存在である。

門下連合会の理事会が指令塔になり、実行部隊を別に設置しさえすれば、必ずや良き結果を生み出すに違いない。理事会の中にこうしたムードが生まれさえすれば、開宗七百五十年もしめたものではなかろうか。

幸いに、この「門連だより」は、門下共通の意見発表の場として唯一認められている。要はこれを活かすか殺すか、生殺与奪の権を思い切って本紙に与え、編集委員会からの大胆なる提言を期待していただければと思う。もうその段階に来ているのである。

そうすることで、必ず面白い企てが実現出来る気がする。編集委員会の空気を知るひとりとして、こんな思い切った提言をも、ここに記して、今回の座談会を終えるにあたり、一言記して、まとめとしたい。

恭賀新春

平成十年戊寅

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　岩間日勇
総務　藤井教雄
役職員一同
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　田中日淳
執事長　市川智康
役職員一同
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)二三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　吉永日晴
総務　大川定信
執事　津村乗信
執事　安東靖弘
執事　山本晃道
執事　小松正学
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　竹嶋日香
執事長　笹原壮玄
執事　西山英仁
執事　鈴木顕正
執事　栗田孝之
執事　高橋俊二
執事　下間要一
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　真枝日世
執事長　岩崎峻暉
執事　笹木研秀
執事　矢放真文
〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松本日望
執事長　飯田信栄
役職員一同
〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七

日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　田中良英
執事　今村要道
執事　岩崎隆義
執事　佐藤哲夫
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職(二十二世隠居)　井上日慶
事務局長　伊藤隆之
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

立教開宗出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
別当　杉山日慎
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　山田一光
執事長　原光司
〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入

宗祖御誕生霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
貫首　石川日命
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊一八三
電話 〇四七〇九(五)二六二一

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山本門寺
貫首　本間日諄
執事長　本間正晃
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)二五一七

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
執事長　冨田義董
参与　関観康
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
同　土田勝宏
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首　金山日龍
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　駒野教格
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成九年度随身生募集中

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　土屋学周
参与　山田完修
同　新井智清
同　末吉啓宣
執事　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

門連時報

京都理事会・懇談会開催さる

平成九年十二月二日（月）本山頂妙寺（土屋学周貫首）に於て恒例の門連京都理事会・京門連との懇談会が開催された。午後一時土屋貫首猊下導師のもと法味言上、遷化先師回向がなされた。記念撮影の後客殿に於て土屋貫首より頂妙寺の縁起について御講演。

午後二時三十分開議。出席者全員自己紹介の後、永井祥文理事長座長となって議事進行、上半期事業報告、門連だよりに関して富川幹事が報告を行った。京都門連事業報告に関して杉若理事長より開宗会、夏期大学、御会式など、活潑な事業推進に関する報告があった。大阪門下懇談会に関しては木下恵温師より総会、合同お会式、研修会、京都本山めぐりの実施など、着実な継続運営について報告がなされた。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関しては三年来懸案になっている日蓮聖人門下の文化芸術にスポットをあてた展覧会に関し、大橋担当常任理事より報告。東京国立博物館との間に行われた交渉結果（第二面参照）に基づき、本年十月門連理事長名にて門下加盟各派（教団）に対し所蔵品目に関する調査依頼を行った事について、積極的な協力が要請された。この件に関し、博物館側に資料がある筈であり、博物館側からの要請に応えて出品を検討する方がいいのではないか、とする京門連の意見が提示されたが、本展企画の主体は門連にあり、門連の主体性に於て第一段階としての調査を行いたいとの趣意が説明され、隠れた名品発掘の可能性も考えられる事から、今回調査への協力が確認された。

次に門連監査役肉倉貫義師が去る十月二十八日御遷化になられたので後任につき、永井理事長より東京、駒形本久寺住職・持田貫宣師の推薦あり、全員賛成にて就任が決定した。

門連京都理事会・京門連との懇談会
（平成９年12月１日　於：本山頂妙寺）

頂妙寺本堂

御本尊

京都門連第七一六回御会式奉行

万灯行列復活・チャリティーバザー・模擬店盛大に

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長―日蓮宗）は、十月四日本山頂妙寺に於いて、第七百十六回御会式を奉行し、僧俗約二百名が参加した。

あいにくの雨模様で、門下青年僧や随喜寺院による報恩唱題行脚並びに、三田市妙三寺（吉田宏遠住職）万灯隊の協力を得て復活した万灯行列は中止となり、変更して本堂前にて撃鼓唱題、万灯奉納を厳修した。

京都門連　お会式万灯（本堂前）

御会式法要は、本山頂妙寺土屋学周貫首を導師に、杉若理事長と飯田信栄副理事長（本門法華宗）が副導師にて厳修され、参列者一同御報恩の誠を捧げた。法要後、大本山本能寺和田日攝貫首による「宗祖の御慈悲」の講題で法話があり、檀信徒は信仰の心の糧を尊く得た。

今年より、新しく企画されたチャリティーバザーは、会員寺院より品物を提供して戴き、約五百品が集まり、十七万六千百円の売上があった。又、模擬店では、たこやき、おうどん、子供遊戯があり、御会式の一日を満喫した。尚、バザー売上金は、関係先へ寄付される。

（藤井照源）

京都門連　夏季大学

滞りなく諸事を終了、第二会場菊水に移り懇親を深め、八時散会となった。

（富川孝恭）

京都門連夏季大学開催

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長―日蓮宗）では、八月二十五日本能寺文化会館で、第三十四回夏季大学を開き、僧侶檀信徒二百人が参加した。

二十一世紀に向けての法華信仰の展開―日蓮聖人と共に語る―をテーマに、生きててよかったね、生（久遠の命）きててよかったね、蘇（い）きててよかったねと、過去・現在・未来にわたる三世の命の尊さを認識し、お題目を唱える私たちにとって、日蓮聖人を、どうとらえ、学び、広げて行くかを学んだ。

講演に先立ち、開講式が行われ、会長の本山本法寺金山寛成貫首を導師に、法味言上、杉若理事長が挨拶し講演に入った。

大本山本圀寺久村日鑒貫首は「仏法と世法」、日蓮宗の僧侶で医学博士の柴田寛彦先生（秋田県本澄寺住職）は「法華経に学ぶ生命倫理―動物実験と不殺生―」、ジャーナリストの乙骨正生先生は「世紀末から新世紀へ。日蓮教団に課せられているもの―特に創価学会問題を中心に―」の講題で講演した。

物質文明の今、何が大切か、なぜ新新宗教が蔓延るのか、日蓮聖人の御心を通じ、参加者一同学ぶべき事が多かった。

（藤井照源）

お題目の「商標登録」について

門連だより第16号でお知らせしたように、徳島県阿南市の清酒製造業の西岡敬芳なる人物が「南無妙法蓮華経」の文字を指定商品「酒類」として特許庁へ商標登録出願し、日蓮宗の異議申立によって特許庁は再度に亘って申請を拒絶したにもかかわらず、平成八年二月九日付公告が行われた。日蓮宗はただちに異議申立を行ったが、出願人も反論し、応酬があったが平成九年三月十九日付日蓮宗の異議申立は「理由がないもの」という審判決定を行い、同年五月二十三日付「南無妙法蓮華経」は指定商品「酒類（薬用酒）」として商標登録された。

日蓮宗の提起を受け、門下連合会は右の決定に対して門連傘下全宗派（教団）連名にて無効審判手続を行う方針を決定、直ちに実行した。ちなみに審判は文書のみで行われ、決定が下される迄には二～三年がかかるらしい。

又無効審判の決定を不服とする場合には特許庁でなく裁判所に対して上告をすることができ、この場合は高等裁判所から始まる。

日蓮宗宗務院護法伝道部編
B５判・並製本
日蓮宗御遺文習学シリーズ
お申し込みは 日蓮宗新聞社
〒146 東京都大田区池上7-23-3
〈全品〒実費〉TEL.03(3755)5271

①『富木尼御前御返事』に聞く　三〇〇円
矢の走ることは弓の力
富木常忍の夫人から届いた供養に対する感謝と、病弱な夫人の身を案じた聖人の励ましのお手紙

②『清澄寺大衆中』に聞く　三〇〇円
日本第一の智者となしたまえ

③『盂蘭盆御書』に聞く　三〇〇円
自身仏に成らずしては父母をだにも救いがたし
文永の役から一年、再び来襲の危機が…。緊迫した状況の中で故郷・清澄の人々にあてたお手紙。
盂蘭盆の起源から語り始め、目連尊者の物語を通して法華経の功徳をわかりやすく説く聖人。

④『安国論御勘由来』に聞く　三〇〇円
前代に超えたる大地震
『立正安国論』での内乱と侵略の予言が的中。苦難にあえぐ人々を救うため再三示された対策。

⑤『妙心尼御前御返事』に聞く　三〇〇円
病によりて道心は起こり候か
重病の夫を介護する尼に「題目こそ薬」と法華経を説き、病の心構えと臨終の安心を与える。

⑥『新尼御前御返事』に聞く　三五〇円
この五字の大曼荼羅
「恩ある人でも信仰が定まらない者にご本尊を授与できない」という聖人の厳格な信仰の姿。
―新発売―

各派・教団 短信

日本山妙法寺

◆6月5日山形仏舎利塔入仏式。6月15日九段道場にて35回サルボダヤ交友会総会。21日ロンドン宝塔12周年記念法要。22日ミルトンキーンズ宝塔17周年記念法要。25日パリー道場22周年記念法要。29日ウィーン宝塔14周年法要。◆7月3日ネパール・ルンビニ園道場主任生天目上人暴徒夜間侵入発砲遷化。18日渋谷道場にて本葬。◆8月6日広島原爆慰霊祭参列。15日千鳥ヶ淵戦没者慰霊祭参加。24日西天開教記念法要（熱海道場）。25日身延山参詣祈念。31日行静院日処尊尼本葬（阿蘇道場）。◆9月1日関東大震災御祈念。12日龍の口法難会参詣。◆10月2日第128回ガンジー生誕日記念集会（サルボダヤ九段道場）。12月池上お会式参詣。21日ダージリン宝塔5周年法要。25日多宝山宝塔28周年法要。

（石山善邦）

日蓮宗

◆十月二十五・二十六日の両日、池上本門寺の国・重要文化財五重塔の初重（一階部分）内部が公開され、日中は汗ばむ晴天のもと延べ約三万人が訪れた。この五重塔はたびたび修理が行われているが、全面解体は今回が初めて。◆立教開宗七百五十年慶讃事業の最も大きな柱である清澄寺研修会館の建設が始まった。施工事者の決定に伴い十月十七日、清澄寺境内の建設予定地で地鎮式が行われた。地元千葉県南部修法師会員が出仕し、「四十九穴鎮浄法」という本格的な地鎮の修法が行われた。◆十一月三日（月）午前十一時より午後一時半迄、正中山法華経寺聖教殿お風入れが奉行された。今年は天気に恵まれ、一年ぶりに大聖人の御真跡が公開された。法華経寺祖師堂が完成されたこともあって、当日は沢山の拝観者が訪れ、大聖人の御真跡を拝し、大聖人の御心に触れた。奉展数は十九点で、中でも観心本尊抄・立正安国論・鷲目御消息・病即御曼荼羅などが注目を集めた。

（太田順祥）

国柱会

◆各地方連合局の主催で日蓮主義講習会・儀典研修会並びに婦人部講習会を開催。◆奥羽地方連合局では平成十年に国柱会奥羽開教百年を迎えるにあたり記念大会開催にむけて実行委員会を発足。◆7月26～28日、第45回国柱会少年少女夏期学校。8月に入って近畿地方、山陽・四国地方で開校。◆8月23～24日、前会長田中香浦先生報恩の集い・申孝園青年セミナー開催。◆8月24日、前会長田中香浦先生一周忌追善法要厳修。ついで追憶のつどい。◆9月14日～15日、式士任用試験。◆10月4～5日、毎年奉行している身延大祖廟輪番給仕第33回国柱会奉仕団。御門下を代表し会長田中暉丘先生を団長に昼夜不断の唱題給仕（54名参加）。◆10月12日、池上本門寺境内で恒例の純正日蓮主義屋外宣伝。福岡市東公園の日蓮聖人銅像前でも実施。◆11月3日、明治神宮参拝。近畿地方連合局で桃山御陵参拝（二百余名参加）。◆11月16日、平成9年度定例協議員会。平成10年度事業計画を審議。妙宗大霊廟創建70周年記念大会の開催、恩師田中智学先生第60回忌を迎え著書『本化攝折論』、『日蓮聖人の三大誓願』の復刊、その他を決議。◆11月16～17日、恩師田中智学先生第59回忌報恩大会。16日、御逮夜法要厳修後、追憶の集い。17日、報恩大法要厳修後、報恩の集い。

（秋場善彌）

京都門下連合会

◆8月25日夏期大学。於本能寺会館。テーマ「二十一世紀に向けての法華信仰の展開―日蓮聖人と共に語る―」、講師は、大本山本圀寺久村日鑒貫首「仏法と世法」、日蓮宗本澄寺住職・医学博士柴田寛彦先生「法華経に学ぶ生命倫理―動物実験と不殺生―」、ジャーナリスト乙骨正生先生「世紀末から新世紀へ。日蓮教団に課せられているもの―特に創価学会を中心に―」◆8月25日理事会。於本能寺会館。御会式の件◆9月10日御会式企画委員会。於日蓮宗京都一部宗務所、御会式の件◆10月2日奉行委員会。於日蓮宗京都一部宗務所、御会式の準備と最終打ち合わせ◆10月4日御会式。法要―本山頂妙寺本堂に於いて奉行、大導師は本山頂妙寺貫首土屋学周猊下、法話は、大本山本能寺貫首和田日攝猊下「宗祖の御慈悲」、チャリティーバザー・模擬店（たこやき・うどん・子供遊戯）等◆11月14日理事会。於日蓮宗京都一部宗務所、全門連京都理事会懇談会の件◆12月1日全門連京都理事会。理事会は頂妙寺、懇親会は菊水◆12月8日会計監査、於日蓮宗京都一部宗務所◆12月17日理事会。於本能寺会館。平成9年度会務報告・平成9年度決算報告

（藤井照源）

顕本法華宗

◆8月19日、本山総務更迭。総本山妙満寺施餓鬼法要をもって本山総務交替が報告され、中村通義師に替わり、新任大川定信師（京都寂光寺住職）が就任した。◆8月25日～9月8日、平成九年度妙塔学林開校。総本山妙満寺に於いて、将来教師をめざす修業僧が早朝より夜遅く迄行学に励み、全員無事卒業を果たした。◆10月6～7日、東部連合会研修旅行。沼津光長寺（法華宗本門流）を参拝し、日蓮聖人御真筆大曼陀羅、舎利を拝観し、手厚い接待を頂いた。◆10月12日、奉誓式。総本山妙満寺に於いて本年度新任住職の奉誓式が執り行われた。◆10月12～13日、総本山妙満寺御会式。近末寺院総僧出仕のもと、地方からの団参と共に日蓮大聖人の遺徳を偲んだ。◆10月27日、常楽院日経上人墓所参拝。富山県婦中町の音川教会に於いて、吉永日晴猊下を始めとする僧俗により、殉教の先師日経上人の墓所参拝が執り行われた。本宗では不受不施の先師日経上人を偲んで、毎年秋に墓所参拝を奉行している。◆11月4日（東部・東京天妙國寺）、11月28日（西部・京都妙満寺）、僧員講習会。仏教大学講師・弁護士の矢吹輝夫氏を招き、先頃改正された「宗教法人法」について講義を受けた。

（多門顕正）

日蓮本宗

◆佐藤智明宗務当局が「客殿・大書院・庫裏」などの改築大事業を成満したので、任期途中ながら辞任する意思固く、七月三十一日を以て退任した。七月二十二日に臨時宗会が開催され、激動の時代にふさわしい宗・山の行財政機構を確立するために、新しい当局が選任された。

八月一日から田中良英議長（島根県妙伝寺住職）が宗務総長、今村要道議員（京都市實成院住職）が総務部長・教学部長、岩崎隆義議員（福島県妙泉寺住職）が財務部長、佐藤哲夫議員（大阪市円頓寺住職）が法務部長が就任した。◆本山要法寺第五十祖日運上人の第十三回忌（御正当は十一月七日）報恩法要を十月十三日の御大会式に併修し、ご遺徳を偲んだ。◆要法護持会の本部研修会は、本山要法寺大書院を会場に十月十三日午前十時から開催し、今村要道師（實成院住職）を講師に招いて「要法寺と名乗ってから」と題した講義をされた。◆十一月十五日は第三祖日目上人の御正当に当たるため、御茶毘所跡の日目庵で、午前十時から本山要法寺貫首日有猊下御親修、当局、第一教区（京都市）、第七区教区（岐阜県）の寺院住職・教師が出仕し、檀信徒も参拝して『目師会』を営んだ。

（柳下正則）

法華宗真門流

◆各種講習会開催。青年僧、学生僧を対象とした教学講習会が8月23～29日まで総本山本隆寺にて開催された。◆8月26日総本山本隆寺にて寺宝、什物の虫払い会展観法要が開催された。◆8月24～30日まで、小樽市妙法華寺において、北海道学林が開催され、期間中に豊浜トンネル落石事故現場に出向き、慰霊法要を厳修し小樽市街に於いて交通安全世界平和を祈願して唱題行進を実施した。◆9月6日第一教区主催の教区講演会が開催された。◆9月7日第三教区主催の教区講演会が開催された。◆9月14日第二教区教学講習会が開催された。◆9月1日福井県小浜市本山本境寺山主、谷川日友上人遷化される。◆10月12・13日総本山御会式奉修。◆10月13日総本山本隆寺において、初転法輪挙行、本年は7名が初転法輪に臨んだ。

石川県市橋諦秀　福井県森崎善敬
奈良県辻本純照　北海道上川泰憲
兵庫県南山円洸　福井県宝田英晃
福井県笠谷信公

（堀内浩善）

法華宗陣門流

◆9月2～3日、東京巣鴨「別院本妙寺」に於いて、中央行学講習会が行われた。一日目第一講義に池上本門寺執事長、市川智康上人を迎え、演題は「大聖人消息、身延より池上」であった。第二講義は本宗学林教授感応院住職、田中見成師を迎え、演題は「御遺文に学ぶ」であった。二日目は、一之江「国柱会」並びに池上「本門寺」を参拝し閉校式を迎えた。◆11月15～16日、三宗統合協議学生講座（陣門・顕本・真門の三宗による統合学院）が法華宗陣門流当番の元、宗務院に於いて開催された。講師は本宗学林教授・本照院住職鈴木顕正師で、演題は「宗学概論」であった。◆11月21日、宗学研究所所員会・22日学林教授会が宗務院に於いて開催された。◆12月2～3日、新住職・学生・沙弥合同研修会が行われた。一日目第一講、教化部長・楡原上行寺住職門谷東生師による「日蓮聖人門下について」、第二講、会計事務所所長・神津政志氏による「新宗教法人の解説」、第三講、学林教授・願成寺住職鈴木宏正師による「門祖教学入門」二日目第四講、翼工房社長・谷口順氏による「寺院建築の様式について」である。

（今井満良）

本門法華宗

◆去る平成9年11月12日、大本山妙蓮寺に於いて、本門法華宗管長松本日望猊下の妙蓮寺貫首第百七世の晋山式法要が門末各寺院・京都日蓮聖人門下連合会本山本法寺金山日龍猊下他各大本山御貫首猊下御臨席のもと、自坊京都成願寺檀信徒参集を得て奉修された。祝宴は会場を京都国際ホテルに移動し、二百五十名を越える盛大なものとなった。◆本門法華宗総長の任期が、平成9年8月30日付で満了により、総長選出の結果、大阪久成寺高邉信幸現総長が次期総長に選定された。同8月31日就任の高邉総長は以下のとおり責任役員及び内局員を選任した。本門法華宗責任役員総務部長藤井宏長（大阪市本妙寺）、同宗務部長信隆允忠（大阪市妙堯寺）、同財務部長増田隆雄（大阪市久本寺）、同教務部長音羽隆全（京都市恵光院）、同庶務部長土畑信教（茨木市本龍寺）内局主事吉村頼彦。委嘱大阪宗務所長山下通雄（大阪妙覚寺）。◆本門法華宗学院並びに教学部では平成9年12月1・2日第84回教学講を大本山妙蓮寺で開催した。講師は増田日紘猊下・飯田信栄本山執事長・白山智宏学院教授、北川前肇立正大学教授。

（木村光正）

法華宗本門流

◆茂原・大本山鷲山寺の藤田日浄猊下が四期二十年に亘る貫首職を御退蔵なされ、新貫首には鈴木日有猊下（北茨城・成顕寺）が就任し、昨年11月13日、晋山式を虔修した。併せて同日、管長に推戴され、門下連合会顧問に就いた。◆尼崎・大本山本興寺の大平日晋猊下、沼津・大本山光長寺の久保木日秀猊下が相次いで御退蔵。選挙により後任貫首には、本興寺―松井日俊上人（豊中・藤井寺）、光長寺―片山郁朗上人（伊東・安立寺）が当選した。晋山式は、本興寺が本年2月、光長寺が本年4月に奉修の予定。◆任期満了に因り宗務総長選挙が施行され、原井慈鳳師（沼津・妙泉寺）が当選し昨年12月10日就任。これに伴い教化部長に圓成淳龍師（尼崎・恵運院）、教学部長に桃井晋城師（京都・龍雲寺）、財務部長に坂巻顕導師（東金・上行寺）、庶務部長に矢吹慈英師（福島・妙法院）を配して組局を完了し、開宗七五〇年奉讃に向け宗政を担当する。◆古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成10年度新入生募集中。

（矢吹慈英）

本門佛立宗

◆第二次・小山内局発足、第二十三期宗会議員選出される。去る平成九年十月十二日をもって任期満了した宗務内局、並びに第二十二期宗会議員の改選選出が滞りなく行われ、平成九年十月十三日付けにて、第二次・小山内局が発足し、併せて第二十三期宗会議員が選出された。

宗門の主な新役員は次の通り。
☆本宗参議・小山日誠・的場滋朗、伊藤隆之、
☆宗務総長・小山日誠、宗務副総長・笹王日昌、佐藤政司、教務局長・高須日良、弘通局長・高野日豊、総務局長・河内日宏、出版局長・丸山日印、財務局長・佐藤政司の各氏。

この他に、十一名の支庁長・二十九の布教区から教（僧）講（信徒）代表各一名、計五十八名の宗会議員が改選誕生した。◆立教開宗七五〇年特別局が設置承認される。

去る十一月二十七日に開催された第百五十六回臨時宗会にて、『開宗七五〇年特別局』の設置が、満場一致で承認され、前宗会議長の石田日奥師が特別局長に選出され、本格的に報恩御奉公の実働体勢に入った。

（深澤泉奥）

るつうぶん
流通文
るつうぶん

＊前号の流通文には、法器養成の必要性が強調されていた。まさにその通りである。日蓮聖人門下連合会の存在理由は、加盟各団体が独自でなしとげられない世界を互いに補い合う世界がなければならない。

＊そうなら、法器養成においても共通の機関が設けられるぐらいの発想があってしかるべきだ。いや発想は既にあるのだから、あとは実行が伴えばよい。今号で完結した編集委員による座談会は、その辺りを手探りながら求めているようだ。

＊開宗七五〇に向け、東京、京都の国立博物館で展示会が予定されている。何としても成功させたい企画だ。それと我らが撃って出る企ても一方にあらねばならないと思う。そういう面で今年は重要な年になりそうである。（宏）